

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	化学2
科目基礎情報						
科目番号	2S07		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	制御情報工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書：辰巳 敬他著 高等学校理科用化学基礎、化学 数研出版。参考書：数研出版編集部 リードα化学基礎+化学 数研出版					
担当教員	黒飛 敬					
到達目標						
1. 化学と人間生活、物質の構成や変化について理解し、説明できる。 2. 酸化・還元および 電池のはたらき・電気分解などを、電子の授受を中心に理解できる。 3. 典型元素および遷移元素の単体や化合物の性質について理解できる。 4. 有機化合物の構造と性質の関係や我々の生活との関わりなどについて理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	酸化・還元について説明できる。		酸化・還元について理解できる。		酸化・還元について知っている。	
評価項目 2	電池のはたらき・電気分解などを、電子の授受を中心に説明できる。		電池のはたらき・電気分解などを、電子の授受を中心に理解できる。		電池のはたらき・電気分解などを、電子の授受を中心に知っている。	
評価項目 3	典型元素および遷移元素の単体や化合物の性質について説明できる。		典型元素および遷移元素の単体や化合物の性質について理解できる。		典型元素および遷移元素の単体や化合物の性質について知っている。	
評価項目 4	有機化合物について説明できる。		有機化合物について理解できる。		有機化合物について知っている。	
学科の到達目標項目との関係						
4						
教育方法等						
概要	我々の身の回りにある物質やその変化・性質を理解するため、「物質の成り立ち」、「原子の構造とそれから発現する性質」、「化学結合」、「化学反応」などの基礎を習得する。さらに、日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
授業の進め方・方法	講義を中心に一部視聴覚教材を用いる。					
注意点	前期及び後期に関しては定期試験（中間試験 5 0％、期末試験 5 0％）から評価する。 前期成績 5 0％、後期成績 5 0％として総合評価する。（評価基準：60点以上を合格とする。） 再試験、または課題を行う。再試験、または課題は60点以上を合格とする。 諸注意 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	酸化・還元の定義		酸化と還元の定義について説明できる。	
		2週	酸化・還元と酸化数		酸化数と酸化・還元の関係について説明できる。	
		3週	酸化剤・還元剤のはたらき方		酸化剤・還元剤のはたらき方について説明できる。	
		4週	酸化還元反応の量的関係		酸化還元滴定について説明でき、関連する計算ができる。	
		5週	金属のイオン化傾向		金属のイオン化傾向について説明できる。	
		6週	電池		化学電池について説明できる。	
		7週	電気分解		電気分解について説明できる。	
		8週	電気分解の利用		金属の製錬について説明できる。	
	2ndQ	9週	電気分解の量的関係		ファラデーの法則について説明できる。	
		10週	電気分解のまとめ		電気分解反応を説明でき、関連する計算ができる。	
		11週	元素の分類と周期表		元素の分類と周期表について説明できる。	
		12週	水素・希ガス元素・ハロゲン元素		水素、希ガス元素、ハロゲン元素について説明できる。	
		13週	酸素と硫黄		酸素と硫黄について説明できる。	
		14週	窒素・リン・スズ・鉛		窒素・リン・スズ・鉛について説明できる。	
		15週	炭素・ケイ素		炭素・ケイ素について説明できる。	
		16週				
後期	3rdQ	1週	アルカリ金属元素と2族元素		アルカリ金属元素と2族元素について説明できる。	
		2週	アルミニウム・亜鉛・スズ・鉛		アルミニウム・亜鉛・スズ・鉛について説明できる。	
		3週	遷移元素の特色		遷移元素の特色について説明できる。	
		4週	鉄		鉄について説明できる。	
		5週	銅・銀・金		銅・銀・金について説明できる。	
		6週	クロム・マンガン		クロム・マンガンについて説明できる。	
		7週	金属イオンの分離		金属イオンの分離について説明できる。	

	4thQ	8週	有機化合物の特徴と分類	有機化合物の特徴と分類について説明できる。
		9週	有機化合物の分析	有機化合物の分析について説明できる。
		10週	飽和炭化水素	飽和炭化水素について説明できる。
		11週	不飽和炭化水素	不飽和炭化水素について説明できる。
		12週	アルコールと関連化合物 1	アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトンについて説明できる。
		13週	アルコールと関連化合物 2	カルボン酸・エステル類について説明できる。
		14週	芳香族化合物 1	芳香族炭化水素・フェノール類について説明できる。
		15週	芳香族化合物 2	芳香族カルボン酸・アミンとアゾ化合物について説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	化学(一般)	化学(一般)	酸・塩基の定義(ブレンステッドまで)を説明できる。	3	
				酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。	3	
				電離度から酸・塩基の強弱を説明できる。	3	
				pHを説明でき、pHから水素イオン濃度を計算できる。また、水素イオン濃度をpHに変換できる。	3	
				中和反応がどのような反応であるか説明できる。	3	
				中和滴定の計算ができる。	3	
				酸化還元反応について説明できる。	3	前1,前2,前3,前4
				イオン化傾向について説明できる。	3	前5
				金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明できる。	3	前5
				ダニエル電池についてその反応を説明できる。	3	前6
				鉛蓄電池についてその反応を説明できる。	3	前6
				一次電池の種類を説明できる。	3	前6
				二次電池の種類を説明できる。	3	前6
				電気分解反応を説明できる。	3	前7
				電気分解の利用として、例えば電解めっき、銅の精錬、金属のリサイクルへの適用など、実社会における技術の利用例を説明できる。	3	前8
				ファラデーの法則による計算ができる。	3	前9

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0